

1 研究主題、研究内容等について

① 研究主題

「主体的に学び、心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成
～課題発見・解決学習と体験活動の推進を通して～」

② 主題設定の理由

学校教育の目標は、児童生徒の自己実現に向けて、知・徳・体のバランスのとれた人格の形成を促すことであり、小学校教育では基礎・基本の学力の定着を図ることと豊かな心の育成が求められている。そのためには、児童や教職員が落ち着いた学校生活を送り、その根底をなす積極的な生徒指導を学校教育の中心において推進する必要があると考える。

本校では、生徒指導面では、あいさつ運動等の取組により、学校だけでなく、地域においても元気にあいさつができる児童が増えてきた。また、どの学年においても「黙々そうじ」が徹底しており、落ち着いた学校生活を送ることができている。しかし、児童間の共感的人間関係づくりには課題がある。学力面においては、算数科を中心に児童生徒の主体的な学びにつながるような、気付きの交流から学び合いにつながる授業づくりに取り組んできた。その結果、算数科A問題においては、全国・県の平均通過率を上回り、基礎的・基本的な力は定着しつつあるといえる。しかし、自分の考えを論理的に説明する力は課題として残っている。

また、本中学校区においては、授業改善や生徒指導を中心に連携して取組を進めてきた。その中で、基礎的・基本的な学力の確実な定着や、学校外でのルールの徹底などについて小中共通の課題が明らかになった。

これらのことから今年度はさらに主体的な学びに向けて、児童生徒が気付きの交流からめあてを設定しペアやグループで学び合いを深める授業づくりを推進し、課題発見・解決学習を進めていきたいと考え、研究主題を設定した。

③ 研究仮説

中学校区の課題を基に、付けたい力を明確にし、児童の学びがより主体的な学びになるよう、課題発見・解決学習に必要な気付きから始まり、学び合いを深める授業づくりを推進すれば、児童は主体的に学び、確かな学力を身に付けることができるであろう。

④ 研究内容

- ア 気付きの交流から課題解決に見通しを持たせ、学び合いにつなげる授業展開の工夫
- イ 発達段階に応じた「まとめ」と「振り返り」、「評価」の工夫
- ウ 課題発見・解決学習に必要な思考スキル等を身に付けさせる工夫
- エ 小中の学びをつなぐための、小・小、小・中の連携の充実

⑤ 検証の指標

- ア 児童生徒意識調査（小中一貫アンケート全学年）
- イ 「基礎・基本」定着状況調査質問紙（5年）
- ウ 全国学力・学習状況調査（6年）
- エ 標準学力調査（1年～5年）
- オ Q-U 等
- カ 国語科・算数科の市販テスト

2 検証計画

①	研究授業・研究協議会の実施（小中合同全体研修，低・中・高ブロックから校内全体研修各1回）
②	児童生徒意識調査（小中一貫アンケート）の分析
③	「基礎・基本」定着状況調査の分析
④	全国学力・学習定着状況調査の分析
⑤	「標準学力調査」の分析
⑥	Q-Uの分析
⑦	国語科・算数科の市販テストにおいて到達得点以上の児童の割合が80%以上

3 校内研修計画

(1) 研究授業及び研究協議会等

月	研修内容
4月	○小中合同研修会（研究組織・今年度の取組等の確認，部会，分科会） ○全国学力・学習状況調査の実施
5月	○研究授業 学習指導案検討会（中学校区） ○Q-Uの実施 ○中学年部研究授業 学習指導案検討会 ○中学年部研究授業
6月	○研究授業（中学校区） ○「基礎・基本」定着状況調査の実施 ○高学年部研究授業 学習指導案検討会 ○高学年部研究授業
7月	○1学期 小中一貫アンケートの実施及び分析
8月	○中学校区全体研修（2回）
9月	○「基礎・基本」定着状況調査，全国学力・学習状況調査の結果分析 ○低学年部研究授業 学習指導案検討会 ○低学年部研究授業
10月	○公開授業（全学級）
11月	○Q-Uの実施
12月	○広地区クリーン活動 ○異文化間協働活動の実施 ○2学期 小中一貫アンケートの実施及び分析
1月	○カリキュラムの改善
2月	○小中合同研修会（まとめ）
3月	○取組のまとめと次年度の計画

※各ブロックの研究授業は，その都度時期を設定し実施する。

(2) 理論研修

授業改善に関わっての理論研修（授業スタイル，思考スキル等）

4 研究公開の予定について

公開予定日	令和元年 10月 21日（月）
タイプ	普及型・ 提案型 ・報告型
公開範囲	全県対象公開
公開内容等	広中央中学校区小中一貫教育

※ タイプについては，校内研修ハンドブック（広島県教育委員会 平成15年3月）を参照。